

## ◆ 新城地域自治区大茶話会の開催について ◆

新城地域自治区は、新城市の中心市街地を有する地域であることから、市内の他地域に比べ、日々の暮らしにおける利便性についてそれほど大きな問題意識を持つ住民は多くありません。

しかし、地域活動における人材確保の面においては、すでに直面している問題となっている地区があり、新城地域自治区全体でも祭礼や区の行事、商店街の状況など一昔前の状況と比較したときに、寂しさを感じる住民は少なくありません。

今後、少子高齢化や人口減少、若者の地域離れといった問題により、ますます地域の状況は深刻化する恐れがあります。こうした問題によるまちの衰退を最小限に食い止め、地域が発展できるようなまちづくりを展開するためには、より多くの地域住民が地域に目を向け、地域のために活躍できる場づくりと人づくりが必要です。

そのため、新城地域協議会では、これからの新城地域自治区におけるまちづくりに地域住民の「声」を反映する機能として、また、市民自治意識の高揚を図ることを目的として、平成26年度新城地域自治区予算事業計画に、この新城地域自治区大茶話会開催事業を盛り込み、市長に建議をいたしました。

## ◆ 新城地域自治区「大茶話会2014」の位置づけ ◆

新城地域自治区に住む各行政区老若男女、様々な年代が一堂に会し、それぞれが日頃感じている身近な課題や地域のこと、必要と思う施策などを話し合い、情報を共有し、今後の地域づくりのための課題解決や活性化につながる活動は何かを探ります。そして、参加をきっかけに、住民自らが地域の課題等に対し、主体的に行動することの重要性を認識し、率先して働きかけることのできる行動力や地域の連帯感の醸成、さらには地域間の連携へと広がっていくよう市民意識の高まりを期待するねらいが込められています。

また、新城地域協議会は、「大茶話会 2014」の結果を参考に、今後の新城地域自治区予算事業計画へ盛り込むための検討資料とするとともに、市役所各課への事業要望や建議すべきことについて検討するための資料とします。

## ◆ 新城地域自治区「大茶話会2014」の手法 ◆

### 1. 実行委員会による企画運営

平成26年度新城地域自治区予算事業計画に基づく新城市の主催事業として、会の企画段階から当日の運営までを公募市民による「新城地域自治区大茶話会実行委員会」への委託により実施しました。

### 2. 住民基本台帳による無作為抽出

大茶話会2014への参加の呼びかけは、18歳以上の新城地域自治区住民を対象に住民基本台帳による無作為抽出を行い、1,000人に参加案内状を送付しました。

抽出は、一定行政区に偏らないよう東新町区、西新町区、本町区、入船区、新城中町区、栄町区、橋向区、的場区、弁天区それぞれの人口比率を加味し、より地域の構成要素に沿ったものとししました。

なお、抽出・集計作業は、個人情報保護の観点から実行委員会に参加する市職員が担当しました。

### 3. 情報提供

無作為抽出による1,000人の方には、参加案内状と併せて「新城中部まちづくりアンケート」への協力も呼びかけました。

その集計結果を年代別に表記し、各年代がどのような考えを持っているのか、グループにおいて、将来を見据えた幅広い議論となるよう情報提供させていただきました。

### 4. 話し合いの方法

話し合いは、1グループ3～4人単位、全9グループが同時に行い、各グループの進行役には市職員（地域活動支援員）にグループファシリテーターを依頼しました。

今回は、より多くの意見を参加者全員で共有してもらい、地域としての問題意識を高めることで、最終的に公益的な具体案につながる議論となることを期待し、ステージごとに同じメンバーとならないよう配慮した席替えを行いながら進めるワールドカフェ方式をとりました。

### 5. まとまった結果の取り扱い

平成27年度新城地域自治区予算事業計画には、大茶話会からの提案事業として35万円の予算枠が盛り込まれていますので、今回の報告書を基に新城地域協議会で協議し、提案の実現をめざします。また、全市的な課題も含め、今後の新城地域協議会での検討資料として活用していきます。